

人形芝居の人形について

青柳節子

毎號「幼兒の教育」を手にして、いつも乍ら、皆様の有益な御發表を拜見致し、私等は眞に教はる所が多う御座ぬます。付きましてこの度は、私も貧しい、經驗のうちから、少し紙面を拜借して人形芝居に用ふる、人形製作について、のべさせて頂きます。

人形芝居は、どちらの幼稚園でも、子供達に非常に歓迎されるものであることは、同じでございます。見物席で眼を圓くして、舞臺を見つめてゐる様を見るとき、又同一の脚本を再三上演しても倦ず觀てゐるのを見ると、どんなに、子供達が興味をもつものであるかと、云ふことがわかります。それと共に、その熱心な觀客を前にして、演ずる私等の責任を強く感じ、より以上の物にした

いと云ふ、慾望がわいてまゐります。

ところで、私も初め上演の頃は、箱人形、蠟人形、綿人形等をこしらへました。が、人形の着物や繪の下手な私の書いた平面な顔だけでは、どうしても、その人物の感じが、なか／＼思ふ様に出ません。まして、あやつり人形の様に、下半身の運動がありませんし、手の運動も自由ではありませんので、尙その表現がむづかしい様に思はれました。そこで私は、或る知人のお話を参考に致しまして、次の様な人形のこしらへ方を致しました。

それは、先づ新聞紙を細く細くちぎりまして、それを古鍋様の容器に入れて、水をひた／＼にさし、弱火にかけて、氣長に煮つめるので御座ぬます。これは瓦斯等にかかけましては、第一火の工合

も良くありませんし、經濟もたまりません。一番よろしいのは、外籠を拵へて、半日も一日も煮るので御座りますが、私は、この冬、ストーブを焚き乍ら、あの鐵板の上のせて鐵のあたゝかみで、毎日保育の傍ら煮ました、そふ致しますと、後には、ドロ／＼の糊の様になつてまゐります。それを、手でしぼり固める様な氣もちで、顔をこしらへて參ります。この時に指を入れる處だけを穴にしておき、登場人物の特徴や鼻や、頭部の格好や耳等もつけて、出来上りましたら、日光に乾します。乾きますと、粘土等を混ぜました物と異つて極めて軽く、又非常に丈夫な物が出来上ります。その上に、胡粉をゼラチンでといて、眞白にぬり乾いたら繪具で、顔を書きます。

こふして書いて見ますと、大變面倒で、手數がかかる様でございますが、實際致しますと、極く簡単に出来ます。私は子供と共に、上演の日の樂しさを語りひつゝ、拵へたり顔書き等致しましたそんな風にして人形を拵へてまいりますと、子供

達も、人形の特徴から、いろ／＼とその場面を想像して、それはそれは楽しみにいたします。紙は二合五勺人位の容器にいつぱい煮て、人形六七個から十個位出来ました。

も一つ、上演の方法に付まして、脚本によつて、多勢か一時に登場する場合、人形と臺詞との關係が不明確で、どの人形の云つた臺詞か、子供には分らない場合もある様な氣が致しますので先日は、一人が脚本をお話風に直して、それをゆつくり讀んでまいりますと、その筋の運びにつれて、他の人達が人形を動かして行きます。こふ致しますと、一寸上演しにくい様な處も、幕間に解説が出来て、人形の動作も好く出来、筋も子供に理解できる様子で、私の上演致しましたところでは、大變好結果の様でございました。尙、人形の拵へ方や、上演の方法に付いて、他に良い御研究が御座居ましたら、御指導下されば結構に思ひます。拙い文章でおわかりにくいところもあるかと思いますが、どうぞ、御推讀下さいませ。